

# 台湾における文化詞の日本語訳

頼錦雀

東呉大学日本語文学科教授

## 1. はじめに

台湾における日本語教育は長い間、言語形式に力を置いてきた。言語の知識が重要なので、言語形式を重視するのは無理からぬことであろうが、言語の構造的な能力だけではコミュニケーションがうまくできない恐れがある、ということは近年、だんだん取り上げられるようになってきた。特に、毎年600万人ぐらいの人的交流<sup>1</sup>がある台湾と日本の間において、文化理解抜きに日本語学習は不足を感じられている。異文化交流能力育成は重要視されているのもそのためである。そのうち、文化詞は言語における重要項目の一つである。但し、台湾の日本語教育における文化詞関係の論述はそれほど多くなかった。2019年2月の調査によると、最近、台湾の日本語関係紀要に文化翻訳関係の論文はあるが、文化詞というキーワードが論文テーマに入っているのはあまり見られなかった<sup>2</sup>。

今までの台湾の日本語教育を概観してみると、言語と文化の統合はまだいろいろ力を入れる余地があるように思われる。言語と文化は別々の項目として指導されているが、その統合にはもっと努力する必要がある。本研究では言語文化教育学<sup>3</sup>としての、台湾における日本語教育学の翻訳指導の観点から、日本語による文化間コミュニケーション能力の育成における文化詞について考えたいものである。

---

<sup>1</sup> 日本観光局、台湾観光局の資料によると、2018年における台湾の訪日人数は4,757,258人、日本の訪台人数は1,969,151人ある。

<sup>2</sup> 教育部「多國語文與文化連結課程計畫」の成果として、台湾文化詞の英語訳がまとめられた『臺灣文化詞』(Taiwan Cultural Glossary)(林建光・施以明編審、中興大學、2018)が発表されているが、日本語訳は見られなかった。

<sup>3</sup> 縫部(2001)によると、言語文化教育学は言語と文化を教授・学習・伝達・認識の醸成に関わる活動と過程を客観的に捉え、そのメカニズムを解明することと、この言語と文化の教授・学習を通して人間的成長・発達がどのように達成されるのかを探求することを目的としている。

1970年代までは翻訳は言語間の変換作業のように思われ、文学か言語学のいずれかの領域で論じられていた。その代表的な翻訳理論の一つは起点言語を目標言語に翻訳する作業において両者の意味が等価であると主張するユージン・ナイダの理論である。ナイダは(1) (等価の前提としての)意味分析の手法、(2) (等価を実現するための)言語間の統語的転移の手法、(3)等価反応達成の手法を主張して、そして、その意味分析においては文化的分析も必要だと考えられている<sup>4</sup>。しかし、ナイダの等価理論に対して、河原(2014)は意味構築のダイナミックが考慮されていない、科学的に立証が可能な側面のみ焦点を当てた統語論を翻訳のプロセス研究に応用してしまった、等価反応の達成は原理的に不可能であると批判している。

1976年にベルギーのルーヴァンで行われた座談会で翻訳研究は独立した学問として認められるようになった<sup>5</sup>。翻訳研究の関心は文学と言語学を超えて文化研究の一環になった。そして、起点言語の言語的・文化的な特質に合わせて翻訳を決める異化という方法にするか、或いは目標言語の言語的・文化的な特質に合わせて翻訳を決める同化という方法にするかによって、翻訳の作品が異なるようになり、その背後にある翻訳理論も違うようになる<sup>6</sup>。日本語で台湾の使用言語や文化を表現する際、翻訳の技法から見れば、台湾文化という起点文化の性質を日本語の中に保持するための戦略は異化であり、台湾文化の特質を日本語という目標文化に即した形に馴化させる戦略は同化であるが、一体、日本語作品と台湾作品の日本語訳において台湾関係の文化詞はどのように表現されているのか、興味深いことだと思われる。

文化詞は字面の意味だけではなく、その記号に含まれている文化的意味があるので文学、言語学、翻訳学のどの領域においても、指導は重要である。日本語教育においては日本語を中国語に訳すこと

---

<sup>4</sup> 河原(2014)による。

<sup>5</sup> 吉村(2005)を参照。

<sup>6</sup> 翻訳における異化(foreignization)と同化(domestication)について詳しくはVenuti(2000)を参照されたい。

も、中国語を日本語に訳すことも大事であるが、本研究では、台湾の中国語と閩南語の文化詞の日本語訳を考察し、教育現場での台湾文化詞の翻訳指導について考える。文化詞の定義と日本語翻訳、特に中日翻訳における問題点を鳥瞰したあと、日本語作品と台湾作品の日本語訳における文化詞を考察・分析して、日本語教育における文化詞翻訳の指導方法を考案してみたいものである。

## 2. 文化詞とは

日本語彙研究では文化詞という分類はあまり見られないが、中国語彙研究では文化詞〈文化詞彙〉はよく取り上げられる。本研究は台湾の中国語<sup>7</sup>と閩南語の日本語訳について考えるものであるが、文化詞という術語を用いることにする。

文化詞の定義と分類について説が分かれている。常（2000）は文化詞は特定範疇の語彙を指すが、直接か間接的に民族文化を反映する語彙である、と定義し、倫理観念、婉曲的意識を表す言葉、「心、天、氣、神」のような漢民族心理を表す言葉、宗教文化語彙、「龍、鳳、虎」や十二支、二十四節に関する民族文化語彙、自称詞や誉め言葉、お詫びの言葉、オノマトペ、飲食文化語彙、数詞、色名、名前、地名について述べている。その書名『漢語詞彙與文化』で分かるように、常（2000）の文化詞は「語」中心である。

葛（2016）は次のように文化詞を定義し、語彙とともに短文も文化詞として取り上げている。

- イ. 文化語彙は特定文化範疇の語彙、民族文化が直接的に反映される詞である。
- ロ. 文化意味の言葉か短文。
- ハ. 一定の文化背景で生まれた言葉である。
- ニ. 文化的意義を持つ語である。
- ホ. 文化詞は民族の独特の文化を反映した語であり、比喩語、象徴

---

<sup>7</sup> 本論文では中国の「普通話」と区別して、台湾の中国語のことを「台灣華語」と呼ぶ。

語、ほめる詞、貶す詞、文体の特質を表す詞を含む。

へ. 文化詞は豊かな文化的意味を持っていながら、字面ではその内蔵された付加意味が分かりにくいものである。

文化詞に対して、ある地域で用いられ、その地域の政治、経済、文化の特徴を表す語を指す〈社区詞〉(地域詞)も見られる<sup>8</sup>が、本研究では異文化交流という視点から台湾文化の特徴を表す語彙が考察対象であるので、文化詞という用語を用いることにする。

### 3. 中日翻訳の問題点

中日翻訳において、次のようなものが見られる。

(1) 來臺北也有十年了，十年間換了二十多個工作地方，每次都是甩性子瀟灑一時，其間，有幾次沒錢付房租，嬰兒生病典當東西看醫生等等。(黃春明〈莎啞娜啦·再見〉p. 一六一)

台北に来てから十年になるが、その十年間の私は二十数回も職業を換えて転々としていた。そのたびごとに、しばらくの間はなにごとにもカドをたてないよう我慢をしていたものだ。転々と仕事を換えていた頃はアパートの部屋代にも困り、赤ん坊が病気になると質屋に駆けこんで金を作り、やっと医者に行った。(福田桂二訳「さよなら・再見」p. 13)

(2) (海關)「連褲子裡面都搜查了。……」(中略)「真的你們都被翻褲底了?」(黃春明〈莎啞娜啦·再見〉p. 一六五—一六七)

「ズボンの内側までいちいち調べたぜ……」(中略)「ホントか、おまえたち、みんなズボンのすそまで調べられたか」(福田桂二訳「さよなら・再見」p. 19)

(3) 我頓時覺得他們非常非常醜陋。但是我臉上的表情，一定還是那幅笑容，不然他們不會那麼放浪。可怕的是，我臉上的那一幅表情，已經不用下意識去裝出來。(黃春明〈莎啞娜啦·再見〉p. 一七三)

<sup>8</sup> 田 (2016) による。

私は急に彼らをひどくいやらしいヤツらだと感じたが、表面は相変わらずにここにこしていた。そうでないと彼らは遊びにくくなるだろう。しかし、困ったことに、いやらしいヤツらだと思ふ気持ちがだんだん顔に出てきてしまう。(福田桂二訳「さよなら・再見」 p. 28)

(4) 影子與土狗(利玉芳〈影子與土狗〉《淡飲洛神花茶の早晨》)  
(影と野良犬)

(5) 我收到一封信/信裡夾帶兩顆紅豆/(中略)/紅豆包裝你的木訥/(中略)/輕輕的一顆相思/擔負起一顆心的重量/盼望愛/有結果/(後略)(利玉芳〈一顆心的重量〉《燈籠花》)  
(わたしは一通の手紙を受け取った/中に小豆がふた粒入っていた/(中略)/小豆にはあなたの朴訥さが包まれていて/(中略)/軽いひと粒の両想いが一つの心の重みを負っている/愛を熱望すれば/実る)

(6) 柑仔店 柑仔店低矮的梁柱/層層疊疊夾著五島用的手帕/(中略)/陽光停格木窗上/柑仔店的收音機/講台語/(後略)  
(利玉芳〈柑仔店〉《燈籠花》)

オレンジ店 オレンジ店の低い梁と柱に/びっしりとダンス用のハンカチが挟み込んである/(中略)/陽の光が格子窓の上に止まっている/オレンジ店のラジオが/台湾語をしゃべっている/(後略)

まず例(1)の「甩性子瀟灑一時」は「わがままで仕事を転々と換えた」ことを言うのだから、「カドをたてないよう我慢をしていた」ことではないと思われる。例(2)の「褲底」はズボンのすそではなく、股の中央の十字の縫い目にあたる部分をさすのである。例(3)の日本語訳「しかし、困ったことに、いやらしいヤツらだと思ふ気持ちがだんだん顔に出てきてしまう。」は原文の「可怕的是，我臉上的那一幅表情，已經不用下意識去裝出來。」とは随分、意味がかけ離れている。例(4)の〈土狗〉が「野良犬」に訳されているのは考えものである。昔、台湾の田舎に大人しそうな〈土狗〉が多く見られた。〈台湾畜犬協會〉及び愛好会のメンバーの長年の努力によって2015

年、イタリアで開催された世界畜犬聯盟（FCI：Fédération Cynologique Internationale）で「台灣土狗」は「台灣犬」（Taiwan Dog）と正式に改名された<sup>9</sup>。「野良犬」は「飼い主がない狗」のことを指すので、誤訳である。〈紅豆〉は確かに食用の場合は日本語の「小豆（あずき）」にあたるが、例（5）では食用の「小豆」ではなく、サガの実を指すのである。ハート形のサガの実は中国語では〈相思豆〉ということがある。唐・王維の詩《相思》〈紅豆生南國／春來發幾枝／勸君多採擷／此物最相思〉における〈紅豆〉は「君が恋しい」というシンボルとしての〈相思豆〉のことである。これは同じ漢字表記による誤訳である。例（6）では〈柑仔店〉は「オレンジ店」に訳されているが、これも漢字表記による誤訳である。台湾語の〈柑仔店〉は「雑貨屋」の意である。もともと商品を〈箬〉（<sup>カム</sup>浅い箬の一種）に入れて商売する〈箬仔店〉（<sup>カム</sup>）のことである。

上述した誤訳は台湾の言葉や台湾文化に対する認識不足による問題である。特に例（4）－（6）のような、日本人翻訳家による文化詞の誤訳をなくすには、異文化理解能力の向上が求められる。

#### 4. 作品における台湾の文化詞

台湾関係の文化詞はどのように日本語に訳されているのか、見てみよう。

##### 4.1 日本語作品の場合

本節では植民地時代の台湾事情を記録した西川満・池田敏雄『華麗島民話集』（1999、陳藻香監修、中日対訳版、致良出版社。元：1942、日孝山房蔵版。）、西川満『華麗顯風録』（1999、陳藻香監修、中日対訳版、致良出版社。元：1981、人間の星社刊行）、国民党の戒厳令下の台湾が舞台になっている東山彰良『流』（2015、講談社）、「台湾生まれ日本語育ち」<sup>10</sup>の温又柔が書いた『空港時光』（2018、河出書

<sup>9</sup> 【大紀元 2017 年 09 月 01 日訊】（<http://www.epochtimes.com/b5/17/8/31/n9587111.htm>）による。

<sup>10</sup> 温又柔が 2015 年に出した本の名前でもある。

房) を対象に、台湾の文化詞について考察する。

#### 4.1.1 『華麗島民話集』

『華麗島民話集』(以下、『華民』)に見られる文化詞は、漢字表記<sup>11</sup>の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビ<sup>12</sup>を付けられるものが多い<sup>13</sup>。日本語の注がないと閩南語の分からない人には理解しかねる恐れがある。勿論、日本語でよく見られる、漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビが付いている語も見られる(例13)。

(7) <sup>チツニューマア</sup>七娘媽と海老の皮(『華民』p.12)

(8) 人々は、かわるがわる神前に<sup>ボエ</sup>筈を擲げて、今年の運勢をを占った。(『華民』p.14)

(9) けれども幾度擲げても、<sup>キイボエ</sup>怒筈が現われるばかりであった。(『華民』p.16)

(10) 一人の老人が、ふと昼間のことを思い出し、試みに、それでは海老の皮をお供えすればよろしいのでしょうか、と尋ねて<sup>ボエ</sup>筈を擲げると、はじめて<sup>ホウボエ</sup>好筈が出た。(『華民』p.16)

(11) 母親はすぐに<sup>フムラン</sup>媒人呼んで、多額のお金を渡した。(『華民』p.24)

(12) ある日、<sup>ホオコオボウ</sup>虎姑婆がやって来て、姉妹を食べようとした。(『華民』p.46)

(13) <sup>えんま</sup>閻魔は、鼠を見つけ次第殺してしまえ、と云った。(『華民』p.34)

#### 4.1.2 『華麗島顯風録』

『華麗島顯風録』(以下、『華風』)における台湾の文化詞は次のよ

<sup>11</sup> 『華麗島民話集』は原版が絶版したので1999年に出版された中日対訳版を用いることにしたが、台湾語の繁体字表記は一部、1942年の版本と違うものもあると思われる。例えば、「鷄」と「雞」、「脚」と「腳」など。

<sup>12</sup> ルビとは振り仮名のことである。ルビという名称は日本の印刷界でルビに用いていた7号活字に相当する欧文活字の大きさの名称として「ルビー」が用いられていたことによる。詳しくは小林(2012)を参照されたい。

<sup>13</sup> 邱(2017)によれば、佐藤春夫の台湾関係作品にも地名を漢字プラス片仮名で表記したことがある。例えば、<sup>ツイシエンコ</sup>醉仙閣、<sup>クワンアム</sup>龜山、<sup>アンピンカン</sup>安平港。そして、伊藤(2002)によれば、まどみちおの詩にも<sup>ホウティン</sup>好天、<sup>ギナ</sup>囡仔、<sup>アンニア</sup>阿娘、<sup>トーデーコン</sup>土地公など。

うに分類される。

(一) 漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。

(14) 金紙<sup>きんし</sup>を焼くけむりが濛々と大火炉から立ち昇って、いろとりどりに飾られた絢爛たる廟の屋根を覆い、炉主の鳴らした銅鑼の音が、四囲の空気を震わせた。(『華風』 p. 12)

(二) 漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。

(15) 明日の祭の準備だろう、辻々に慶讃の黄灯<sup>ンテエン</sup>がとまり、料亭からは芸姐の奏でる胡弓の音がかすかに流れていた。(『華風』 p. 20)

(三) 漢字表記の閩南語に片仮名による閩南語の発音と平仮名による日本語の発音のルビを付ける。

(16) かくすること七度、秘図をそっと土砂で蔽い、感謝の奉告のために、上帝廟<sup>シヨンテエビョウ</sup>へ向かった。(『華風』 p. 106)

(四) 漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(17) ト者は寝台の前で竹籤<sup>おみくじ</sup>を鳴らし、符を書き、金紙を焼いて、三跪九拜した。(『華風』 p. 24)

但し、次のように同じ文化詞で閩南語の発音も日本語の音読みも見られる例がある。

(18) (前略)すでに孤棚には、四肢をひろげた丸裸の豚羊や、籠に入れ信者たちが持ち来たった五牲餅、菜飯、粽、米粉などがところせまいまでに並べられ、紅七衣をまとった道士<sup>トオスウ</sup>の赦罪経咒が、壇上から力強く響いている。(『華民』 p. 58)

(19) 道士<sup>トウシ</sup>は咒文を唱えて点火した。(『華民』 p. 70)

#### 4.1.3 『流』

2015年の第153回直木賞受賞作『流』は台湾生まれの東山彰良の作品である。1975年代の台湾が舞台になっている『流』における文化詞は次のように分類される<sup>14</sup>。

<sup>14</sup>謝(2016)は『流』における文化翻訳を音訳、意識、音訳・意識並列、二重翻訳、引用の五分類に大別し、(1)中国語漢字に中国語発音ルビ、(2)中国語漢字に日本語訓読ルビ、(3)閩南語漢字に閩南語発音ルビ、(4)中国語漢字に日本語注釈ルビ、(5)台湾語に日本語注釈ルビ、(6)日本語に注釈、

- (一) 漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。
- (20) 豆売りはのんびりした調子で「豆花、豆花、」と台湾語で呼ばわっている。(『流』 p.138)
- (二) 漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。
- (21) みんなにはただ「阿婆の店」と呼ばれていた。(『流』 p.60)
- (三) 漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。
- (22) おまえが葉尊麟の孫だと知れたらどうなると思う？(『流』 p13)
- (23) 兄貴が会頭になるのか？(『流』 p40)
- (四) 漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。
- (24) 土地公や菩薩や航海の守り神の媽祖といった由緒正しい神仏を祀った廟は「陽廟」と呼ばれ(後略)(『流』 p.74)
- (五) 漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。
- (25) で、日が暮れると、舞い飛ぶ萤火虫が兵舎にまで迷いこんできた。(『流』 p.253)
- (六) 漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。
- (26) 宇文叔父さんには義兄弟の契りを交わした黒道の友達がたくさんいた。(『流』 p.24)
- (七) 漢字表記の中国語に平仮名片仮名交じりの日本語の意味のルビを付ける。
- (27) 滾開、死流氓！(『流』 p.203)
- (八) 漢字表記の中国語に漢字で日本語の意味のルビを付ける。
- (28) とにかく、その漢奸の手引きでたくさん村がつぶされた。(『流』 p.35)
- (九) 漢字表記の中国語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。
- (29) 「殺光、搶光、燒光よ。方々で掃討作戦を展開しとった。

(7) 中国語に中国語発音ルビか中国語に日本語説明、(8) 中国語に片仮名による中国発音と平仮名による日本語注釈のルビ、(9) 中国語に日本語外来語のルビ、(10) ローマ字に日本語注釈か外来語のルビ、(11) 四字成語の場合のように下位分類した。本研究ではそれを参照して再分類する。

(『流』 p. 35)

(十) 漢字表記の中国語に片仮名で日本語の外来語の意味のルビを付ける。

(30) そもそも孫のまえで馬脚をあらわすはずがないし、あんたのおじいちゃんは花花公子<sup>フレイボーイ</sup>よ、と女たちに意味ありげな含み笑いを添えて言われたことも一度ならずある。(『流』 p. 45)

(十一) 漢字表記の中国語に片仮名の中国語発音と平仮名の日本語の意味のルビを付ける。

(31) 「あんたのおじいちゃんはずっと馬爺爺<sup>マじいさん</sup>にお金を送ってたのよ」と祖母が説明してくれた。(『流』 p. 313)

(十二) 漢字表記の中国語に片仮名による中国語の発音のルビと小文字による2行の日本語注釈を付ける。

(32) ところがどっこい、天のたすけか地の加護か、阿婆<sup>アボ</sup>の店のまえを駆けぬけたとき、臭豆腐<sup>ツォウドウフー</sup> ( 納豆菌を発酵させた漬け汁<sup>に豆腐を</sup> ) 屋台のテーブルで酒盛りをしている小戦が目に飛びこんだ。(『流』 p. 181)

(十三) 漢字表記の中国語に平仮名による中国語の発音のルビと小文字による2行の日本語注釈を付ける。

(33) 全力疾走で勢いのつきすぎた体は、騎楼<sup>きろう</sup> ( 張り出<sup>張り出</sup> ) の支柱に掴まらなければ方向を転じることもできないほどだった。(『流』 p. 212)

(十四) 漢字表記の中国語の下に2行の日本語注釈を小文字で括弧に付ける。

(34) わたしは焦土と化した宝島 ( 台湾の別称<sup>台湾の別称</sup> ) を想像して身震いした。(『流』 p. 15)

(十五) 漢字平仮名交じり表記の中国語に漢字仮名交じり表記の日本語の意味のルビを付ける。

(35) 男子なら丸刈り、女子は西瓜の皮<sup>おかつぱ頭</sup>以外認められていなかった時代(後略)(『流』 p. 14)

『流』における台湾文化詞の表現形式は上述の日本植民時代の台

湾事情を描写した『華麗島民話集』『華麗島顯風録』と大分違っている。

(表 1) 『流』における台湾文化詞

類型	訳例
漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。	アモイ <small>ダーウエ</small> 廈門、豆花
漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	ばばあ 阿婆
漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。	イエツウンリン <small>ヘイゴウ マントウ フイチェン ダオファイ フイトウ ファシェン</small> 葉尊麟、黒狗、饅頭、会錢、倒会、会頭、花生、 チュシュエガオ <small>バンズ ドウファ ボウズ アボ</small> 豚血糕、、胖子、豆花、包子、阿婆
漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。	びんろう 檳榔
漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	ほたる <small>つつじ すいとん おまわり とまれ</small> 螢火蟲、杜鵑花、疙瘩湯、条子、站住
漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。	ヤクザ <small>デブ ブズ</small> 黒道、胖子、臭三八
漢字表記の中国語に平仮名片仮名交じりの日本語の意味のルビを付ける。	くそチンピラ <small>リンちゃん ジャン兄さん</small> 死流氓、小鈴、戦哥
漢字表記の中国語に漢字で日本語の意味のルビを付ける。	売国奴 <small>息子 日本人 宝石店 指導者 大丈夫 自業自得</small> 漢奸、兒子、鬼子、銀楼、領導、没事、活該
漢字表記の中国語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	殺し屋 <small>奪い取す ぼか野郎</small> 殺光、搶光、王八蛋、
漢字表記の中国語に片仮名で日本語の外来語の意味のルビを付ける。	フレイボーイ <small>ビーナツ ソフトボール カウンター</small> 花花公子、花生、墨球、収銀台、 パイヤ 木瓜、
漢字表記の中国語に片仮名による中国語発音と平仮名による日本語の意味のルビを付ける。	まじいさん <small>イン兄さん</small> 馬爺爺、鷹哥
漢字表記の中国語に片仮名による中国語の発音のルビと小文字による日本語注釈の注を付ける。	ツオウドウフー 臭豆腐(納豆菌を発酵させた漬け汁に豆腐を漬 け込み、それを油で揚げたもの)、豆花(にがり トウファ を使わない豆腐に甘い汁かけた食べ物)、喜酒 シイジュウ (結婚の祝い)
漢字表記の中国語に平仮名による中国語の発音のルビと小文字による日本語注釈の注を付ける。	きろう 騎楼(張り出し屋根)、
漢字表記の中国語の下に日本語注釈を( )に付ける。	宝島(台湾の別称)、 自助餐店(セルフサービスの食堂)
漢字平仮名交じり表記の中国語に漢字仮名交じり表記の日本語の意味のルビを付ける。	おかっぱ頭 西瓜の皮、

#### 4.1.4 『空港時光』

2009年「好去好来歌」ですばる文学賞佳作受賞、2015年『台湾生まれ 日本語育ち』で第64回日本エッセイスト・クラブ賞受賞、2017年『真ん中の子どもたち』で第157回芥川賞候補になった、1980年

台北生まれの温又柔は2018年に『空港時光』を発表した。「出発」「日本人のようなもの」「あの子は特別」「異境の台湾人」「親孝行」「可能性」「息子」「鳳梨酥」「百点満点」「到着」など10の物語からなる『空港時光』(以下、『空』)には次のような文化詞が観察された。

(一) 漢字表記の閩南語にローマ字で閩南語の発音のルビを付ける。

(36) 詩婷が阿伯と呼ぶその伯父は、詩婷の父親の兄にあたる。  
(『空』 p. 17)

(二) 漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。

(37) 大舅<sup>おじきん</sup>や舅媽<sup>おぼさん</sup>が望めば、魯肉飯や牛肉麵なんかも食べ放題だよ。(『空』 p. 59)

(三) 漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(38) 大姑公夫婦、阿公阿媽、阿伯夫婦に従兄たち、しょっちゅう里帰りしていた姑姑や従姉、叔叔の婚約者として顔をだしていた阿嬤、兵役から帰ってきたばかりの小叔叔、学生だった小姑……(『空』 p. 109-110)

(四) 漢字表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。

(39) 日本育ちの姪と甥にひきかえ、文健の息子たちは同じ台湾にいながらも内公にはあまりなつかなかった。(『空』 p. 55)

(五) 片仮名表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(40) あのひとはどうなるの？ アヒア、あたしはどうしたらいい？……(『空』 p. 48)

(六) 片仮名表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。

(41) 怡玲は雅玲に語る。あの子は日本人といるよりも、わたしたちと遊びたがった。中国語を積極的に話したがった。それどころか、台湾語もおぼえたがったの。雅玲はそこで嘖き出す。元・ウ・ゴーリン！(『空』 p. 31)

(七) 漢字表記の中国語に平仮名で中国語の発音のルビを付ける。

(42) 学齡に達した寛臣のことを父をはじめ母や叔母たちが、ヒ

ロオミ、と呼ぶようになって、祖父だけは、クワン・シン、  
と閩南風の発音で呼び続けた。(『空』 p. 101)

(八) 漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。

(43) 媽媽には日本人の男朋友がいたの？ (『空』 p. 76)

(九) 漢字表記の中国語にローマ字で中国語の発音のルビを付ける。

(44) くだらかに連なる山々を背にしたビル群を眺めながら、  
圓山大飯店は見えるだろうかと考える。(『空』 p. 39)

(十) 片仮名で中国語の発音を表記する。

(45) イー、エー、サン、シーと十までの数を数えてみせると、  
(中略) 感心された。(『空』 p. 9)

(十一) 漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(46) 好久不見、とほほ笑む怡婷もぎこちなかったが、(後略)(『空』  
p. 21)

(47) —アーメイ、ホ・イ・リン・テェ！— 祖母が咲蓉を示しながら  
阿梅に命じた。阿梅はホオ、ホオと祖母にうなずく。不用、  
と咲蓉は口を挟む。(『空』 p. 114)

(十二) 漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(48) 子ども部屋の引き戸を開け放すと、隣の居間から涼台まで  
一続きになる。(『空』 p. 18)

(49) (前略) だってススムはとても帥哥だった。(『空』 p. 32)

(十三) 漢字表記の中国語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味の  
ルビを付ける。

(50) 年下の詩婷の耳にも、不知道、と言うときの怡婷姐姐の  
発音はちょっと舌足らず。(中略) と思った。(『空』 p. 20)

(十四) 漢字表記の中国語の下に——で日本語の意味を付ける。

(51) かれらのことを、松山機場——台北松山空港——の待合室  
でも見かけたと咲蓉は思う。(『空』 p. 108)

(十五) 漢字表記の中国語のまま表記する。

(52) 「中華民國」「新臺灣」「總統府」といった漢字が躍る。(『空』  
p. 41)

上述の『流』に比べると、閩南語関係の文化詞が多いし、ローマ字表記のルビも見られる。そして、「<sup>パスポート</sup>護照」「<sup>hùzhào</sup>護照」、「<sup>べらんた</sup>涼台」「涼台」のように、同じ言葉で異なった表記になっているものも観察された。

(表 2) 『空港時光』における台湾文化詞

類型	訳例
漢字表記の閩南語にローマ字で閩南語の発音のルビを付ける。	<sup>apēh</sup> 阿伯、
漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。	ローバーベン <sup>クーバーミー</sup> 、 <sup>オンライソー</sup> 、 <sup>トウサン</sup> 、 <sup>ダアグエ</sup> 、 <sup>ピアウギヤ</sup> 魯肉飯、牛肉麵、鳳梨酥、多桑、大哥、婊子
漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>おじいちゃん</sup> 、 <sup>おばあちゃん</sup> 、 <sup>そふとそほ</sup> 、 <sup>おじさん</sup> 、 <sup>おばさん</sup> 阿公、阿媽、阿公阿媽、阿伯、阿姆
漢字表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	父方の祖父 内公
片仮名表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>にいさん</sup> 、 <sup>なんでもないの</sup> アヒア、ボーアンナ、
片仮名表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>冗談</sup> 、 <sup>でしよ</sup> 、 <sup>う</sup> 、 <sup>心配しなくていいのよ</sup> ナ・ウ・ゴーリン、ビエン・ファンロー、 <sup>かわいそくな子ども</sup> 、 <sup>だいじょうぶ</sup> パイミヤアエギンナ、ベヤウキン
漢字表記の中国語に平仮名で中国語の発音のルビを付ける。	<sup>びなん</sup> 閩南
漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。	<sup>ババ</sup> 、 <sup>ママ</sup> 、 <sup>ディホアジェ</sup> 爸爸、媽媽、迪化街、
漢字表記の中国語にローマ字で中国語の発音のルビを付ける。	<sup>Chéng Lóng</sup> 、 <sup>Shītīng</sup> 、 <sup>Yítīng</sup> 、 <sup>Yuánshān</sup> 、 <sup>D-f'ndi-n</sup> 、 <sup>kāfēi</sup> 、 <sup>yīnán</sup> 成龍、詩婷、怡婷、圓山大飯店、咖啡、役男、 <sup>hùzhào</sup> 護照
片仮名で中国語の発音を表記する。	シェシエ、イー、エー、サン、シー
漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>おねえちゃん</sup> 、 <sup>にいさん</sup> 、 <sup>おとうと</sup> 、 <sup>とうさん</sup> 、 <sup>かあさん</sup> 、 <sup>おひさしぶり</sup> 姐姐、哥哥、弟弟、爸爸、媽媽、好久不見、 <sup>おじさん</sup> 、 <sup>かれし</sup> 、 <sup>ひこうき</sup> 、 <sup>ちかてつ</sup> 、 <sup>いとこたち</sup> 大舅、男朋友、飛機、捷運、堂兄弟姊妹 いりません 不用
漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>べらんた</sup> 、 <sup>マンション</sup> 、 <sup>レストラン</sup> 、 <sup>ハンサム</sup> 、 <sup>デロ</sup> 、 <sup>パスポート</sup> 涼台、公寓、餐廳、帥哥、(白色)恐怖、護照、 <sup>ボーディングカード</sup> 、 <sup>パールミルクティー</sup> 登機證、真珠奶茶
漢字表記の中国語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	<sup>知らない</sup> 不知道
漢字表記の中国語の下に――で日本語の意味を付ける。	松山機場――台北松山空港
漢字表記の中国語のままで表記する。	涼台、中華民國、新臺灣、總統府

#### 4.2 台湾作品日本語訳の場合

本節では、バブルがはじまり景気がよい 1970 年代、多くの日本人サラリーマンがツアーを組んで台湾に「買春」に来たことがテーマになっている黄春明著・福田桂二訳「さよなら・再見」及び第 52 回ゴールデングローブ賞外国語映画賞と第 67 回アカデミー賞外国語映画

賞にノミネートされたアン・リー脚本、南條竹則監訳『飲食男女』における台湾の文化詞について考察する。

#### 4.2.1 「さよなら・再見」

黄春明〈莎啞娜啦 再見〉(以下、〈莎〉)における文化詞は福田桂二訳「さよなら・再見」では次のようになっている。

(一) 閩南語をそれに当たる日本語に訳す。

(53) 「すけべえ！」小文は叫んで、落合に佐々木に文句をいってくれとたのみ、落合は小文に叩いてやれという素振りをした。  
(「さ」 p. 40)

「不死鬼！」小文叫著，並且要落合向佐佐木抗議，落合表示要小文打他。(〈莎〉 p. 一八三)

(二) 漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。

(54) (前略) また、彼らは空港からまっすぐ礁溪温泉へ遊びに行くことにしているから案内するように、とのことであった。  
(「さ」 p. 9)

(前略) 並且說他們決定一下飛機，馬上就要赴礁溪溫泉去玩。  
(〈莎〉 p. 一五八)

(55) 西門町にコーヒー店が一軒あったんですが(後略) (「さ」 p. 29)

在西門町有一間咖啡廳 (〈莎〉 p. 一五四)

(56) 「再見」 私はこの日本人たちが、こんな中国語を知っているとは思ってもみなかった。(「さ」 p. 85)

「再見！」我也沒想到這些日本也會這麼一句中國話。(〈莎〉 p. 二二〇)

(三) 片仮名による中国語の発音のルビが付いている中国語の漢字表記と日本語の組み合わせにする。

(57) 社長、こうしたらどうでしょう、葉副社長にお願いして案内してもらったら。(「さ」 p. 10)

總經理，這樣子好嗎？請葉副理帶他們去。(〈莎〉 p. 一五八)

(58) 「あんたの家は廟のそばでしょ。あんた炎竜じいさんの長

男ね、そうでしょう」(「さ」 p. 59)

「你家就在廟旁。你是炎龍伯的大兒子，還說不是！」她笑起來了。(〈莎〉 p. 一九八)

(四) 中国語をそれに当たる日本語に訳す。

(59) 話はこうだ。昨日の昼前、社長<sup>カオシュン</sup>が高雄の支社から台北まで長距離電話をかけてきて、私に十二時十分までに空港へ行き、馬場という人をはじめ七人の日本人を出迎えるように、といった。(「さ」 p. 9)

事情是這樣的，昨天上午，總經理從高雄分公司掛長途電話回臺北，要我在十二點十分以前，到機場去接馬場等七個日本人。(〈莎〉 p. 一五八)

(五) 中国語の訳注を本の最後に付ける。

(60) (前略)讓我們看到南京大屠殺的鏡頭；(〈莎〉 p. 一六〇)

(前略)南京大虐殺<sup>(1)</sup>の写真を見せてくれた。(「さ」 p. 12)

訳注 (1) 一九三七年七月の「日華事変」の勃発により、同年十二月日本軍は当時の中華民国の首都南京を占領したが、その際、一般市民を含む多数の中国人が殺害された。この事件は当時、日本国内には秘密のされたが、欧米のジャーナリズムに紹介され、世界の非難を浴びた。(「さ」 p. 205)

(六) 漢字表記の中国語のまま表記する。

(61) 「小文、おまえ変なこといったらだめだよ」阿秀が叱った。(「さ」 p. 39)

「小文！你不要亂說話。」阿秀警告她。(〈莎〉 p. 一八二)

(表 3) 『さよなら・再見』に見られる台湾文化詞

類型	訳例
閩南語をそれに当たる日本語に訳す。	不死鬼→すけべえ
漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。	台北、北投、高雄、西門町、礁溪、 敦化北路、黄、陳、再見、
片仮名による中国語の	炎龍じいさん、葉副社長

発音のルビが付いている中国語の漢字表記と日本語の組み合わせにする。	
中国語をそれに当たる日本語に訳す。	總經理→社長、小姐→女の子、 拉皮條→ポン引き、 牛唇不對馬嘴→大ボラはすぐばれてしまう、 現在聽起來，你們好像對那場戰爭 <u>從骨子裏</u> 就反對。→ みなさんはあの戦争に <u>実は</u> 反対だったんだ というように聞こえますね。
中国語の訳注を本の最後につける。	南京大虐殺。 訳注(1) 一九三七年七月の「日華事変」の勃発により、同年十二月日本軍は当時の中華民国の首都南京を占領したが、その際、一般市民を含む多数の中国人が殺害された。この事件は当時、日本国内には秘密のされたが、欧米のジャーナリズムに紹介され、世界の非難を浴びた。
漢字表記の中国語のまままで表記する。	小文、阿秀

「さよなら・再見」の訳文を見て分かるように、台湾文化詞は殆どと言っていいほど、日本語に訳されている。そして、必要によって書籍の最後に注を付けて説明する訳法も取られている。このような訳法は多くの台湾作品の日本語訳で採用されているものである。

#### 4.2.2 『飲食男女』

今回のテキストの南條竹則監訳『飲食男女』は小説の日本語訳ではなく、小説を翻案したアン・リーの映画『飲食男女』（日本名は『食卓の恋人たち』）の英漢対照の台本の台詞にアレンジを加えたものである。固有名詞は彭樹君小説《飲食男女》（1994、皇冠文化出版）、林慧懿『飲食男女食譜』を参照したといわれる<sup>15</sup>。『飲食男女』（以下、『飲』）における台湾文化詞の類型は次のようにまとめられる。中国語は彭樹君《飲食男女》（以下、『飲』）による。

(一) 漢字表記の中国語表記に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。

(62) 蔣介石しょうかいせきから蔣經国しょうけいこく、李登輝りとうきに至る政治家。（『飲』 p.9）

<sup>15</sup>南條竹則監訳（1994：181-182）による。

(二) 漢字表記の中国語の表記に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。

(63) うん、あれは良い魚だ。紅焼（醤油煮込み）にしちゃだめだ。もったいない。清蒸<sup>チンジャン</sup>にきなさい。（『飲』 p. 9）

(64) 朱氏がつくった自慢の“蟹粉湯包”——蟹肉の入ったスープ入り小籠包<sup>シャオロンパオ</sup>——まだ蒸籠に入ったままだ。（『飲』 p. 35）

(三) 片仮名による中国語の発音のルビが付いている中国語の漢字表記と日本語の組み合わせにする。

(65) 「パパに電話——温<sup>ウェン</sup>おじさんから」（『飲』 p. 26）

(四) 漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(66) 最後の四品はみんな燉菜<sup>にこみ</sup>だな。（『飲』 p. 30）

(五) 漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。

(67) この魚翅<sup>フカヒレ</sup>のスープ……だしに使った火腿<sup>ペム</sup>が少し古かったみたい。（『飲』 p. 23）

(六) 漢字表記の中国語に片仮名で日本語の外来語の意味のルビを付ける。

(68) 「メニューは？」と朱氏。（『飲』 p. 30）

(69) 各種の烏龍茶や龍井茶、雲南茶、茉莉花茶<sup>ジャスミン</sup>茶、菊花茶、人参茶などがそろえてある。（『飲』 p. 151）

(七) 漢字表記の中国語に日本語の意味の注を付ける。

(70) 錦榮のつくったおかずは、しなびた白菜とグチャグチャの卵炒め、それに焼死体さながらの排骨（豚のあばら肉）だった。（『飲』 p. 110）

(71) テーブルには今夜も見事な料理が並んでいる。腸詰と家鴨の盛合せ、“鷄包翅”（鶏とフカヒレの煮込み）（中略）、“糖醋溜魚片”（鯉の甘酢あんかけ）（後略）（『飲』 p. 21）

(八) 漢字表記の中国語の表記に日本語の説明を付ける。

(72) 「これは“豆瓣魚”よ。温おじさんが初めてあたしに教えてくれた料理」それは鯉を豆瓣醬で味付けした四川風の料理だった。（『飲』 p. 72）

(73) 芋や豚足、鮑、フカヒレなど各種の具を壺に入れてふかした“仏跳牆”、“碧海遊龍”と名づけた小海老とキウイのサラダは、緑とオレンジの色合いがいともあざやかだ——(『飲』p. 159)

(九) 中国語のままか中国語を日本語の漢字で表記する。

(74) 湯葉にしいたけ、胡瓜と鶏肉で松鶴を描いたうつくしい冷盤、東坡肉 (後略) (『飲』 p. 144)

(75) 円山大飯店の朱といえば、台湾、香港はいうまでもなく、世界中の華人社会の食通や料理人で知らぬ者はいない。(『飲』 p. 8)

日本語訳の『飲食男女』では、次のように同じような台湾文化詞が違った日本語訳になっている例が観察された。

(76) 朱氏は苦笑した。「ほんとに、おまえにそっくりだぜ！」温はまた高粱酒をついだ。「おれの方が、あの子のことをよくわかっているみたいだな」(『飲』訳 p. 42)

老朱笑著乾杯，一飲而盡。『說真的，』老温又說，神情一片得意。『你還真沒有我瞭解這個孩子。』(《飲》 p. 〇四八)

(77) 朱氏は首を横に振り、愁いを込めて言った。(『飲』 p. 42)

老朱搖頭，長嘆了一聲。(《飲》 p. 〇四九)

(78) 「酔ったな」朱氏は微笑した。「酔わないでどうする」温は酒瓶をさかさにして、高粱酒の最後の一滴を自分のコップに入れた。(『飲』 p. 43)

『你喝醉了。』『那不正好?』老温傾著酒瓶，把瓶底最後一滴酒倒入杯中。(《飲》 p. 〇五〇)

(79) 温料理長が今日から出てくるというので、円山大飯店の大厨房にはスタッフ全員が集まり、酒肴を用意して、料理長の復帰を祝った。「料理長、御快癒おめでとうございます！」(中略)「温先生……」と一人の助手が言った。(『飲』訳 p. 130)

大厨房裏，所有的員工站成一列，鼓掌歡迎老温歸隊。『温師父，祝你早日康復!』(中略)『温師父……』(《飲》 p. 一四六-一四七)

そして、同じ中華料理で違った翻訳法が取られた例も見られる。小説では料理名しか出されなかったが、日本語訳では日本語話者に分かるように、料理の説明も入れられている。

(80) 朱氏はひとり、台所と食堂を行ったり来たりして、次々と料理を供した。“蒸蛋七星斑”(魚肉の巻き蒸し)、“走油扣肉”(豚肉の醤油煮)、“醬爆青蟹”(蟹の揚げ物)、それに美しい飾り彫りをほどこした冬瓜に入っている排骨のスープ、“菊花小卷”(烏賊を花状に切って蒸したもの)……(『飲』訳 p. 160)  
而老朱還是在廚房與餐廳之間忙進忙出。第二組大菜是七星斑卷、紅燒蹄膀、菊花螃蟹、冬瓜排骨盅和松花烤魚串。(『飲』 p. 一八三—一八四)

(表 4) 『飲食男女』に見られる台湾文化詞

類型	訳例
漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。	しょうかいせき そうびれい りとうき せっこう こうりやんしゅ 蔣介石、宋美齡、李登輝、浙江、高粱酒
漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。	チュウ ウェン チョングオルン ジアチェン ボーカン シンディエン 朱、溫、鐘国倫、家珍、伯剛、新店、 チンジャン バイチュウ シーユイ シャオロンバオ 清蒸、白酒、鱒魚、小籠包
片仮名による中国語の発音のルビが付いている中国語の漢字表記と日本語の組み合わせにする。	ウェン 溫おじさん
漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	さとうきび えび えびみそ こじきどり なまこ 甘蔗、明蝦、蝦漿、叫化子鶏、海參、 にこみ 燉菜、
漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。	フカヒレ 魚翅、
漢字表記の中国語に片仮名で日本語の外来語の意味のルビを付ける。	メニュー ジャスミン 菜單、茉莉花茶
漢字表記の中国語に日本語の意味の注を付ける。	紅燒(醤油煮込み)、排骨(豚のあばら肉)、“鶏包翅”(鶏とフカヒレの煮込み)、“糖醋溜魚片”(鯉の甘酢あんかけ)、“走油扣肉”(豚肉の醤油煮)
漢字表記の中国語に日本語の説明を付ける。	豆瓣魚：それは鯉を豆瓣醬で味付けした四川風の料理だった。 芋や豚足、鮑、フカヒレなど各種の具を壺に入れてふかした“仏跳牆”
漢字表記の中国語のままで表記する。	“蟹粉湯包”、“排翅”、“富貴土窯鶏”、冷盤、東坡肉、円山大飯店

## 5. 考察と分析

4 で見た台湾文化詞の日本語訳の類型（表 5）を見て次のようなことがまとめられる。

- (一) 日本語における台湾の文化の取り扱い方は作者、訳者、時代によって違っている。
- (二) 台湾の日本植民時代では台湾文化詞を日本語発音にする同化の取り扱い方もあるが、西川満のように現地音を大事にして片仮名で文化詞の閩南語の発音を表記する異化の例も見られる<sup>16</sup>。
- (三) 台湾作品の日本語訳の多くは「さよなら・再見」『飲食男女』のように、台湾文化詞を日本語に訳す同化の訳法で取り扱われている。
- (四) 21 世紀に入って以来、『流』『空港時光』のように、台湾の多言語の実態をそのまま日本語で表現する例が見られる。
- (五) 西川満作品、「さよなら・再見」『飲食男女』で見るように、一般的には日本語のルビは親文字<sup>17</sup>の漢字の発音を表記する道具として用いられる。
- (六) 漢字の読み仮名を付ける方法には、(1) 漢字の後の括弧にその読み方を示す、(2) 漢字の後ろの括弧に、2 行に割書きにして「割ルビ」の形でその読み方を示す、(3) 漢字の傍らにルビ（振り仮名）として示す、というような方法がある<sup>18</sup>が、今回考察した作品においては漢字の傍らに振り仮名を付けるというルビが示されている。
- (七) 普通、ルビは平仮名か片仮名で漢字の読み方を示すものとして用いられるが、2015 年に出版された『流』と 2018 年に出版された『空港時光』では、漢字の読み仮名として用いられたほ

<sup>16</sup> 台湾人にも馴染み深い童謡「象さん」の作者のまどみちおの台湾時代の詩歌にも「ギナ 囡仔」「ゴムウツアイ 我不知」「ヤーハム 夜含」「アンニョ 阿娘」などのような閩南語が登場している。詳しくは伊藤英治編（2002）『新訂版 まどみちお全詩集』を参照されたい。

<sup>17</sup> 親文字とはルビが付く対象の本文の文字のことである。

<sup>18</sup> 小林（2012）を参照。

かに、台湾文化詞の日本語の意味を示す道具としても用いられている。

- (八) 台湾文化詞の日本語の意味を示す道具として用いられるルビは『流』『空港時光』において平仮名、片仮名、平仮名片仮名交じり、漢字、漢字仮名交じり、ローマ字などの表記が見られる。
- (九) 日本語訳として用いられるルビは、日本語作品、台湾作品の日本語訳における台湾文化詞の新しい訳法を示している。
- (十) 日本語作品、台湾作品の日本語訳におけるルビは総ルビではなく、パラルビであるので、すべての台湾文化詞に日本語訳に当たるルビが付いているとは限らない。そして、圓山大飯店、円山大飯店のように、同じ文化詞で異なった訳法が取られた例が見られる。
- (十一) 台湾文化詞を語単位で日本語に訳すだけでなく、別の文で説明する例も見られる。
- (十二) 長い注釈が必要な文化詞の場合、文末か書末に訳注を付ける例が観察される。

21世紀において、台湾出身の作家による『流』『空港時光』では台湾の多言語という実態をルビという道具を生かして、台湾文化詞を今までと違った方法で訳している。これは漢字、平仮名、片仮名、ローマ字という多表記、そして漢字仮名交じり表記という混種表記系統を持つ日本語だからこそできた翻訳技法である。このような表記法による文化詞翻訳は正に多言語共生の具現だと言えよう。

(表 5) 日本語作品と台湾作品日本語訳における台湾文化詞

語別	類型	文化詞例
閩南語	漢字表記の閩南語に片仮名で閩南語の発音のルビを付ける。	ロツウ ロツウ ホユユウ ツンサア ツェビョウ ていきゃく シンヂェン 炉主、爐主、花娘、長衫、做嬢、停仔脚、黄灯、 ガエトア リェンチァウホエ ツウシイニユウニョウ シンニョウヂェン キョウ ボオトオ 芸姐、蓮招花、註生娘娘、新娘灯、輪、普度、 ボエミアチイ ホオヒアテイ ビイフン トウスウ アモイ ダークエ 買命錢、好兄弟、米粉、道士、廈門、豆花、 ローバーベン ゲーバーミー オンライソー トウサン ダアグエ ビアウギキア 魯肉飯、牛肉麵、鳳梨酥、多桑、大哥、嬢子、 チツニョウマア 七娘媽

	漢字表記の閩南語にローマ字で閩南語の発音のルビを付ける。	ap e h 阿伯
	漢字表記の閩南語に片仮名による閩南語の発音と平仮名による日本語の発音のルビを付ける。	ションテエビよう 上帝廟
日本語の意味	漢字表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	おみくじ ばばあ おじいちゃん おばあちゃん そふとそほ おじさん 竹籤、阿婆、阿公、阿媽、阿公阿媽、阿伯、おばさん 阿姆
	漢字表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	父方の祖父 内公
	片仮名表記の閩南語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	冗談 でしよ う 心配しないで いい のよ ナ・ウ・ゴーリン、ビエン・ファンロー、 かわい そう な 子 ども だいじょうぶ パイミヤアエギンナ、ベヤウキン
	片仮名表記の閩南語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	にいさん なんでもないの アヒア、ポーアンナ
	閩南語をそれに当たる日本語に訳す。	不死鬼→すけべえ
	注	漢字表記の閩南語に訳注を付ける。
中国語の発音	漢字表記の中国語にローマ字で中国語の発音のルビを付ける。	Chéng Lóng Shìtíng Yítíng Yuánshān Dàfàndiàn kāfēi yìnrán 成龍、詩婷、怡婷、圓山大飯店、咖啡、役男、 hùzhào 護照
	漢字表記の中国語に片仮名で中国語の発音のルビを付ける。	チュウ ウェン チョウのホロン シアチェン ホーカン シンテイエン チンジャン 朱、温、鐘国倫、家珍、伯剛、新店、清蒸、 バイチュウ シーユイ シャオロンバオ イェツウリン ヘイゴウ マントウ 白酒、鱈魚、小籠包、葉尊麟、黒狗、饅頭、 フイチエン タオパイ フイトウ ファシェン チュシュエガオ バンズ ドウファ 会銭、倒会、会頭、花生、豚血糕、胖子、豆花、 ブウス アポ ババ マ マ デイホアジェ タイバイ ペイトウ 包子、阿婆、爸爸、媽媽、迪化街、台北、北投、 カホシエン チャオチー シムンティン ツンホワペールー ホアン チェン ツァイチェン 高雄、礁溪、西門町、敦化北路、黄、陳、再見
	漢字表記の中国語に平仮名で中国語の発音のルビを付ける。	びんなん 閩南
	片仮名で中国語の発音を表記する。	シエシエ、イー、エー、サン、シー
	漢字表記の中国語に片仮名による中国語発音と平仮名による日本語の意味のルビを付ける。	マじいさん イン兄さん 馬爺爺、鷹哥
	片仮名による中国語の発音のルビが付いている中国語の漢字表記と日本語の組み合わせにする。	イヤンロン イエ ウェン 炎竜じいさん、葉副社長、温おじさん
	漢字表記の中国語に平仮名で日本語の発音のルビを付ける。	びんろう しょうかいせき そうびれい りとうき せつこう こうりんしゅ 檳榔、蔣介石、宋美齡、李登輝、浙江、高粱酒、 えんま どうし じょうこうびょう ほんしょうぐん こうざんろう りゅうざんじ 閻魔、道士、城隍廟、范將軍、江山樓、龍山寺、 かんのんさん りょううんぜんじ ま そ しゅうえい ちゅうしゅうせつ 観音山、凌雲禪寺、媽祖、秀英、中秋節
	中国語をそれに当たる日本語に訳す。	總經理→社長、小姐→女の子、拉皮條→ボン引き、牛唇不對馬嘴→大ボラはずぐばれてしまう
	漢字表記の中国語の下に一で日本語の意味を付ける。	松山機場—台北松山空港
	漢字表記の中国語に漢字仮名交じり表記で日本語の意味のルビを付ける。	殺し尽くす 奪い尽くす ばか野郎 知らない ジャン兄さん 殺光、搶光、王八蛋、不知道、戰哥
漢字表記の中国語に漢字で日本語の意味のルビを付ける。	売国奴 息子 日本人 宝石店 指導者 大丈夫 自業自得 漢奸、兒子、鬼子、銀樓、領導、没事、活該	

	漢字表記の中国語に平仮名片仮名交じりの日本語の意味のルビを付ける。	くそチンピラ リンちゃん 死流氓、小鈴
	漢字表記の中国語に平仮名で日本語の意味のルビを付ける。	ほたる つつじ すいとん おまわり とまれ おねえちゃん 萤火虫、杜鵑花、疙瘩湯、条子、站住、姐姐、 にいさん おとうと どうさん かあさん おひさしぶり おじさん 哥哥、弟弟、爸爸、媽媽、好久不見、大舅、 かれし ひこうき ちかてつ いとこたち いりません さとうきび 男朋友、飛機、捷運、堂兄弟姊妹、不用、甘蔗、 えび えびみそ こじきどり なまこ にこみ 明蝦、蝦漿、叫化子雞、海參、燉菜
	漢字表記の中国語に片仮名で日本語の意味のルビを付ける。	ヤクザ デブ ブス フカヒレ 黒道、胖子、臭三八、魚翅
	漢字表記の中国語に日本語の意味の注を付ける。	紅焼（醤油煮込み）、排骨（豚のあばら肉）、 "鶏包翅"（鶏とフカヒレの煮込み）、"糖醋溜魚片" （鯉の甘酢あんかけ）、"走油扣肉"（豚肉の醤油煮）
	漢字平仮名交じり表記の中国語に漢字仮名交じり表記の日本語の意味のルビを付ける。	お かつば 頭 西瓜の皮
	漢字表記の中国語に片仮名で日本語の外来語の意味のルビを付ける。	ブレイ ボーイ ピーナツ ソフトボール カウンター ベランダ マンション 花花公子、花生、墨球、收銀台、涼台、公寓、 レストラン ハンサム テーブル パスポート ボーディングカード 餐廳、帥哥、（白色）恐怖、護照、登機證、 パールミルクティー メニュー ジェスミン 真珠奶茶、菜单、茉莉花茶
中音+注釈	漢字表記の中国語に片仮名による中国語の発音のルビと小文字による日本語解釈の注を付ける。	ツオウドウフー 臭豆腐（納豆菌を発酵させた漬け汁に豆腐を漬け込み、それを油で揚げたもの）、 トゥファ 豆花（にがりを使わない豆腐に甘い汁かけた食べ物）、 シイジュウ 喜酒（結婚の祝い）
語に注釈か説明	漢字表記の中国語に平仮名による中国語の発音のルビと小文字による日本語解釈の注を付ける。	きりゅう 騎樓（張り出し屋根）
	漢字表記の中国語の後に日本語解釈を（ ）に付ける。	宝島（台湾の別称）、 自助餐店（セルフサービスの食堂）
	漢字表記の中国語に日本語の説明を付ける。	豆瓣魚：それは鯉を豆瓣醬で味付けした四川風の料理だった。芋や豚足、鮑、フカヒレなど各種の具を壺に入れてふかした"仏跳牆"
文末に注釈	漢字表記の中国語に注の番号を付けて文末に注釈をする。	南京大虐殺 訳注(1) 一九三七年七月の「日華事変」の勃発により、同年十二月日本軍は当時の中華民国の首都南京を占領したが、その際、一般市民を含む多数の中国人が殺害された。この事件は当時、日本国内には秘密のされたが、欧米のジャーナリズムに紹介され、世界の非難を浴びた。
無訳	漢字表記の中国語のままで表記する。	涼台、中華民國、新臺灣、總統府、小文、阿秀、冷盤、東坡肉、円山大飯店、"蟹粉湯包"、"排翅"、"富貴土窯鶏"

## 6. おわりに—日本語教育における台湾文化詞の翻訳指導への示唆

異化による翻訳は説明か注釈がなければ、目標言語話者に意味が伝えられない恐れがあるが、新鮮味があり、エキゾチシズムを感じさせるようになる。それに対して、同化による翻訳は目標言語の流

暢な表現で分かりやすいので読者に受け入れられやすいし、翻訳の規範とされている。どちらがいいのか、意見が分かれるだろう。多言語・多文化共生を目指している 21 世紀では『流』『空港時光』における台湾文化詞の異化の訳法のほうが、日本語話者の読者の好奇心と知識欲を満たすようになると思われる。但し、ルビによって読み方か意味を示す『流』『空港時光』の表記法は、それぞれの台湾文化詞に当たる日本語をはっきり把握しないとできない技である。真の台日文化交流人材育成という日本語教育の視点から考えてみれば、学習者が台湾文化詞を流暢な日本語で表現できるようにするのが教師の役割である。つまり、異化という訳法を取ると言っても、その文化詞に当たる目標言語を正しく解釈できるように日本語教育現場で指導すべきである。

文化詞翻訳は言語の移動だけの作業ではなく、異文化理解のプロセスの一環でもある。異化であろうと同化であろうと、それは翻訳の表現形式のことであり、どちらも言語力と異文化交流能力が必要である。日本語教師としては、学習者が優れた日本語力とともに台日異文化交流能力を身に付けることができるように教育を施すべきである。

日本語教育における翻訳指導においては、今まで同化という訳法が重視されてきたように思われるし、多くの台湾作品の日本語訳も同化の訳法が取られている。そして、人名、地名の場合も日本語読みにするのが普通である。しかし、異文化交流、意思疎通の観点から見れば、台北 MRT の車内放送で「中山站」のことを「なかやま」と訳したのはやはり考えものである。日本語話者が「なかやま」と言っても、日本語の分からない台湾人には通じないので、人名と地名は日本語読みという同化よりも、「さよなら・再見』『飲食男女』『流』『空港時光』のように台湾言語の原音忠実の異化の訳法をお薦めしたいものである。

## テキスト

- アン・リー著・南條竹則監訳（1994）『飲食男女』新潮社
- 伊藤英治編（2002）『新訂版 まどみちお全詩集』理論社
- 温又柔（2018）『空港時光』河出書房新社
- 西川満・池田敏雄著 陳藻香監修（1999）『華麗島民話集』致良出版社（元：1942、日孝山房蔵版）
- 西川満著 陳藻香監修（1999）『華麗島顯風録』致良出版社（元：1981、人間の星社刊行）
- 東山彰良（2015）『流』講談社
- 黄春明（1974）〈莎啞娜啦 再見〉《莎啞娜啦 再見》遠景出版社
- 福田桂二訳・黄春明著（1979）「莎啞娜啦 再見」『さよなら・再見 アジアの現代文学—台湾』文遊社
- 彭樹君（1994）《飲食男女》皇冠文化出版
- 利玉芳（2000）《淡飲洛神花茶の早晨》台南縣文化局
- 利玉芳（2016）《燈籠花》釀出版（秀威資訊）
- 利玉芳著・池上貞子訳（2018）『利玉芳詩選』未知谷

## 参考文献

- 河原清志（2014）「翻訳等価論の潮流と構築論からの批評」『翻訳研究への招待』No. 11、9-33 頁、日本通訳翻訳学会、神戸
- 小林敏（2012）「ルビの組版処理方法」日本電子出版協会  
<https://www.slideshare.net/JEPAslide/1-22-75553265>  
（2018年10月1日閲覧）
- 陳藻香（2017）『西川満の研究—台湾文学史の視座から』臺大出版中心、台北
- 邱若山（2017）『佐藤春夫と台湾—台湾旅行関係作品研究続編』樺豊出版社、台中
- 縫部義憲（2001）「言語文化教育学における日本語教育学の学的構築」『広島大学日本語教育研究』11、23-31 頁、広島大学、広島
- 吉村正和（2005）「トランスレーション言説研究—意味の等価を超え

て」平成 16 年度名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト「多元文化と未来社会」研究プロジェクトトランスレーション研究報告書 <https://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/socho/mirai/mirai-yoshimura.pdf> (2018 年 9 月 15 日閲覧)

常敬宇(2000)《漢語詞彙與文化》，文橋出版社、台北

(元：《汉语词汇与文化》1995，北京大学出版社)

葛鑑楨(2016)〈汉语文化词与文化点在中级教材、教学中的考察〉《海外華文教育》6(83)、805-815 頁、厦门大学海外教育学院、厦門

田小琳(2016)〈關於詞彙學術語社區詞的命名研究〉《語言文字應用研究文集》、2-12 頁、三聯書店、台北

謝惠貞(2016)〈互相註解、補完的異語世界—論東山彰良《流》中的文化翻譯〉《臺灣文學學報》第二十九期、111-146 頁、政治大學台灣文學研究所、台北

章黎平·解海江(2008)〈汉语文化词典收词的科学性原则〉《辞书研究》4、35-44 頁、辞书出版社、上海

Lawrence Venuti (2000) □The Translation Studies Reader□, Routledge, London

後記：本稿は 2018 年 11 月 3 日に「2018 年靜宜大學外國語文學院第一屆翻譯研究暨第二屆台日兒童文學研究國際シンポジウム」で口頭発表した原稿に基づいて修正したものである。